

(様式1)

自己評価表

愛媛県立川之江高等学校
学校番号(1)

教育方針	(1) 豊かな知性と創造性、果敢な積極性を育てる。 (2) 自他を敬愛する人権尊重の精神と誠実な人間性を育てる。 (3) 豊かな情操と感性、たくましい体力を育てる。 (4) 国際的な視野に立ち、変化に対応できる柔軟性を育てる。 (5) 地域社会に貢献する意欲と実践力を育てる。	重点目標	「社会に貢献できる人材の育成」 — 生徒一人一人が主役として輝く学校・ 地域に信頼される学校を目指して —
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習習慣の確立	週当たり1年20時間・2年25時間・3年30時間 各目標時間の A : 90%以上 B : 80%~ C : 70%~ D : 60%~ E : 60%未満	E	2月調査において1年55%、2年60%であった。いずれの学年も、11月調査よりも微増となっている。	生徒（特に家庭での学習時間確保が難しい生徒）に対して、自習室や職員室前長机における放課後の校内での自習や補習を促すとともに、学習時間に含めることを周知徹底する。 加えて、「課題→小テスト等→不十分な生徒には追試等」という地道で時間のかかる指導を、これまで以上に繰り返す。また、考査前や対外模試前の対策方法について、各教科担任からのアドバイスと、事後にその努力を褒めることを徹底する。
	分かる授業、主体的に学ぶ意欲を育てる授業の実践	授業公開、研究授業、相互授業参観等を通じた授業改善への取組 A : 100% B : 90%~ C : 80%~ D : 70%~ E : 70%未満	B	1名以外の教員が、授業改善に取り組んだと回答した。 授業公開や、教科を超えた相互授業参観の実施、他校での教科横断型授業研修、STEAM教育授業研修等に意欲的に参加し、分かる授業の実施、改善に取り組んでいる。	次年度も教科を超えた相互授業参観を実施したり、他校での教科横断型授業研修、STEAM教育授業研修等に積極的に参加してその情報を共有したりすることで、分かる授業や主体性を育てる授業の実践につなげていきたい。

	A I 時代に対応した学力の育成	読書力を伸ばすための授業内容の工夫、授業展開におけるICTの導入 A : 100% B : 90%~ C : 80%~ D : 70%~ E : 70%未満	A	100%の教員が、授業内容の工夫、ICTの導入に取り組んだと回答した。 本校では本年度も、5分前登校を徹底させ、毎朝10分間の朝読書を行っている。また、図書館だよりを発行し、生徒の読書意欲の高揚に取り組んでいる。	来年度も教務・情報処理課のリーダーシップの下、ICTを活用した授業研修会や校外での研修会参加等に取り組み、生徒の成長に効果的なICTを積極的に活用するなど、分かる授業の実践に努めたい。 また、今後生徒たちが、より積極的に図書館を活用するように、運営の改善や図書館の整理、利用促進等に努めていきたい。
進路指導	確かな学力の修得と進路実現	進学率100%、国公立大学合格者30名以上 A : 30名以上 B : 20名~ C : 15名~ D : 10名~ E : 10名未満	C	国公立大学17名合格(3月14日現在)。進学を希望する生徒は全員進学予定である。	4年制大学への進学希望者が減少する中で、一年次より学ぶ意欲を高めながら、より高い目標に向かわせる指導を行う。
		就職率100% A : 100% B : 90%~ C : 80%~ D : 70%~ E : 70%未満	A	就職希望者31名中31名内定。四国中央市内の企業を中心にほとんどの生徒が内定している。	進路講演会やインターンシップ、応募前職場見学などの就職指導をより充実させることで、企業とのミスマッチを防ぎ、早期の離職率の低下につなげていく。
人権教育・生徒指導	自他を尊重し、互いの人権を認め合う態度の育成	人権意識を高め、いじめを起ささないための取組：年間10回以上 A : 12回 B : 11回 C : 10回 D : 8~9回 E : 7回以下	A	人権・同和教育講演会やホームルーム活動、学校生活アンケートなど、合計12回以上実施した。人権作文や人権標語の作成、人権ポスターの作成と展示を行い、人権意識の高揚を図っている。	いじめは、教職員の目が届かないところで行われることが多いため、生徒の変化の様子を敏感に感じ取ることができる職場環境づくりや、いじめの要因になりやすいストレスの多い環境を作り出さない学校づくりを行う。
		異校種間・異世代間交流学习：年間15回以上 A : 15回以上 B : 13~14回 C : 10~12回 D : 8~9回 E : 7回以下	A	「中学校での活動発表会」2回、「オープンスクールでの中学生との座談会」1回、「川之江先輩塾」5回、「保育体験学習」5回、「ふれあい体験講座」2回、「グローバル人材事業」1回、「ロータリークラブ交換留学」1回、「広島大学訪問」1回等、合計18回以上実施した。	「中学校での活動発表会」「川之江先輩塾」は今年も好評であった。保育体験学習では笑顔で触れ合い、積極的に交流することができた。次年度以降も様々な異校種、異世代交流学习に積極的に取り組んでいきたい。
	公共性とコミュニケーション能力の育成	交通事故発生件数：年間0件 A : 0件 B : 1~4件 C : 5~7件 D : 8~10件 E : 11件以上	B	交通事故が登下校時に3件発生した。交通ルールの徹底、命の大切さをより伝えていきたい。	地域や警察と連携し、登校マナー指導や交通安全教育を実施し、命を守る教育の推進に努める。
		出前授業、出前講座（高大連携）、遠隔授業：年間10回以上、 A : 10回以上 B : 9回 C : 8回 D : 7回 E : 6回以下	A	川之江先輩塾や進路講演会の機会を利用して出前授業、出前講座を19回実施した。遠隔授業は進路ガイダンスや夢ナビ等のサービスを利用して希望者に学期に1回程度実施している。	生徒の実情に合わせ進路希望別に行っているが、実施の内容や時期を工夫して効果的な進路指導につながるよう努める。

特別活動	個性と能力を生かした心身の鍛錬	部活動加入率80%以上 A : 80%以上 B : 75%~ C : 70%~ D : 65%~ E : 65%未満	B	全体加入率は77.4%となり、ここ数年で初めて8割を切った。特徴としては、男女とも加入率が下がっているが、特に1年生男子の加入率の減少と、中途退部が増えていることがあげられる。	生徒数減少により、そもそも当該部経験者が不足していることや、部活動の地域移行が進んでいることを考慮した部の精選をすすめていく必要がある。また、中高の交流など、本校の魅力を発信することにより、本校を選択肢に選ぶ中学生を増やしていく。
	地域に生き、地域を愛し、地域とともに歩む心の育成	ボランティア活動・地域行事への参加：年間平均1人2件以上 A : 2件以上 B : 1.5件~ C : 1件~ D : 0.5件~ E : 0.5件未満	D	参加件数平均が0.7と、若干の上昇にとどまった。地域清掃行事が夏の猛暑で中止となったことが影響していることもあり、実際はC程度の評価と考えている。傾向としては、清掃等の奉仕作業よりは、自分も楽しめるもので、様々なイベントを通し、地域の人々と直接触れ合えるものを希望する生徒が増えている。	募集方法や掲示方法の改善を行う。また、各ボランティア活動の様子や活動体験などを発信する機会を増やし、生徒の興味関心を高めていく。
業務改善	働き方改革の推進とメンタルヘルスケアの充実	業務の効率化による勤務時間外労働時間の削減：昨年より年間10%以上削減 A : 10%以上 B : 8%~ C : 5%~ D : 3%~ E : 3%未満	E	令和5年度と6年度の4月から12月までの勤務状況を比較した。1か月1人当たりの平均勤務時間外在校時間は、令和5年度が52時間28分、令和6年度が55時間6分で、5%増加した。	削減を目標にしていたが、逆に増加した。業務量の均等化やノー残業デーの定期的な設定など、具体的な業務改善を更に進めていく。
		教職員のメンタルヘルスケアの充実と、職場環境の整備	A	学校評価アンケートの結果から、86%の教職員が学校生活に満足している。また、ストレスチェック分析結果から、「上司や同僚からのサポート」は高く、職場の支援体制は高いといえる。	年次有給休暇や、今年度活用が増えたテレワークを更に進め、教職員一人一人がワークライフバランスの充実を実現できるよう努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。